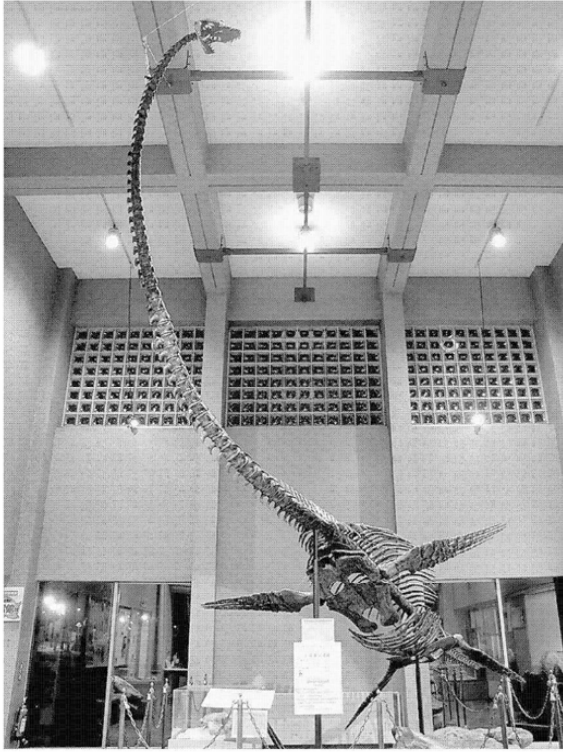




年 組 名前

道新でワークシート

首長くして 天然記念物に



ホベツアラキリュウ化石

道教委は27日、道文化財保護審議会（会長・臼杵勲札幌学院大教授）の答申を受け、胆振管内むかわ町穂別地区で発見された「ホベツアラキリュウ化石」を道の天然記念物に指定した。道内で初めて全身骨格が復元された長頸竜（クビナガリュウ）として学術的価値が高く、穂別博物館の設立や「化石のマチ」として知られる契機になったことも評価された。

ホベツアラキリュウは1975年、旧穂別町在住の荒木新太郎さん(82)が最初の化石を発見。77年の調査で、首や胴など全身の半分に当たる計440点の化石が発掘され、発見者の名前にちなんで命名された。地層の年代は後期白亜紀に含まれる約8300万年

8100万年前。89年にクビナガリュウでは日本で初めて骨の特徴についての論文が書かれ、生態系解明に大きく貢献した。

化石を収蔵、展示するための穂別博物館は82年に建設され、化石の一部や体長約8メートルに及ぶ全身復元骨格のレプリカを展示。「ホッピース」という愛称が公園や団体、菓子の名前に使われ、町民に親しまれていることも評価の理由となった。

荒木さんは「地元で愛される存在になったことをうれしく思う」とコメント。穂別博物館の西村智弘学芸員は「世界的に学術的価値の高い貴重な化石。追加研究も進めたい」と話した。

道天然記念物の指定は2011年以来、6年ぶりで、計34件となった。

穂別博物館に展示されているホベツアラキリュウ化石の全身復元骨格のレプリカ（穂別博物館提供）

2017年9月28日朝刊社会面（記事は再編集しています）

①荒木さんの「地元で愛される存在になった」というコメントは、どのような事実から考えたことですか。記事の中から探して答えなさい。

②見出しの「首長くして」に込められた二つの意味を答えなさい。